

渡川水系後川 内外水統合の浸水想定図（1／5 0 規模降雨）【現況河道】

- 1 説明文
- (1) この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、国管理河川に加えて都道府県管理河川や雨水出水による氾濫についても考慮し、年超過確率1／50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／50（2%））の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面です。

(2) この浸水想定図は、現況の後川等の河況と洪水調節施設（中防川ダム・横瀬川ダム）、下水道及び各種排水路の整備状況等を勘案して、年超過確率1／50（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1／50（2%））の降雨に伴う洪水による後川等の氾濫及び雨水出水による氾濫が発生した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

(3) このシミュレーションの実施にあたっては、高潮による氾濫等を考慮していません。また、シミュレーションの前段となる地形・地質・地層・地質条件等によって結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水想定域内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、主要河川の氾濫が卓越する降雨波形（河川整備基本方針の基本洪水検討時の降雨波形：平成2年10月型）、その他河川の氾濫が卓越する降雨波形（平成4年8月型）、下水道等の氾濫が卓越する降雨波形（平成4年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
- 2 基本事項等
- (1) 公表年月日 令和7年5月30日

(2) 作成主体及び対象となる流域 国土交通省四国地方整備局
・中村河川国道事務所：渡川水系後川流域

(3) 実施区間
【中村河川国道事務所】
・渡川水系後川
左岸：高知県四万十市観岡字北坂折甲 160 番地先の景道橋（坂折橋）から幹川合流点まで
右岸：高知県四万十市観岡字北坂折甲 160 番地先の景道橋（坂折橋）から幹川合流点まで

(4) 対象河川
・渡川水系後川
左岸：古津賀川、金刀比羅川、ハソウダ川、川家川、走川、藤川
右岸：岩田川、瀬々川、板の川、須谷川、田野川、小川内川、内川川

(5) 算出の前提となる降雨
渡川水系後川
・年超過確率1／50（後川秋田上流域の2日間の総雨量 499mm）
県管理河川（渡川水系後川流域、その他河川の氾濫が卓越する降雨シナリオ）
・年超過確率1／50（安芸雨量観測所の3時間の総雨量 223mm）
雨水出水（渡川水系後川流域、下水道等の氾濫が卓越する降雨シナリオ）
・年超過確率1／50（安芸雨量観測所の24時間の総雨量 398mm）

(6) 河道条件
・後川：現況河道（令和5年度、横瀬川ダム完成後）

(7) 下水道等条件
・施設条件：現況
・その他計算条件等
－このシミュレーションは、下水道等の排水施設は一定の排水能力があるものとみなし、地形の高低差などから浸水が想定される範囲やその深さを求めたものであり、時間経過に伴う下水道等の排水施設への流入や浸水を考慮した詳細なシミュレーション結果とは、想定される水深・浸水継続時間が異なる場合がある。
－排水ポンプ・水門・樋門等は操作規則に応じた排水条件を設定。

(8) 関係市町村 四万十市

(9) その他計算条件等
・下水道等の氾濫解析については、氾濫域のメッシュ格子に直接降雨（降雨量に流出率を乗じた値）を与える手法としており、浸水範囲が過大となるおそれがあるため、10cm未満のメッシュ格子は「浸水なし」と評価している。
- ※この多段階の浸水想定図は水防法に基づく図ではありません。



凡 例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

20.0m 以上

10.0m～20.0m 未満

5.0m～10.0m 未満

3.0m～ 5.0m 未満

0.5m～ 3.0m 未満

0.5m 未満

--- 市町村界

浸水想定区域指定の対象となる水位周知河川